

2019年3月期1Q 決算説明会 Q&A サマリ

2018年8月9日時点

【FY18 1Q 実績】

Q 社内計画と比べた実績について確認したい。

A 1Qだけの数字を見て判断するのは難しいが、受注・利益は少し良い程度で、概ね社内計画の範囲内と認識している。

Q 地域別受注など足元の動向について確認したい。

A 大きな変化の認識はないが、CAPEX 案件などお客様の一部で投資マインドに回復の兆しが見える印象である。

Q 制御国内、海外の利益水準について確認したい。

A 現在ライフインベション事業等、新事業の確立にチャレンジしている変革期のなかで、制御セグメントの利益も1Qの結果のみで分析判断することは難しい。この状況のなかで、国内は昨年底採算のジョブが集中し、一時的に悪化した反動で改善した一方、通常投資に加え情報システムの強化などへ戦略的に（数億円程度）予定通り費用執行をしていることなどから、前年実績で若干プラスの水準とみている。一方海外制御は中国での増収に加え、サービスの伸長、のれん減少等もあり大幅に改善している認識である。いずれにしても正式な開示にはもう少し時間をいただきたい。

Q 販管費が7億円強減少していることと、営業利益分析（説明資料 P.6）の販管費増1億円との関連について確認したい。

A 会計処理変更のなかに、販管費と売上原価の科目振替として、入り繰りが6億円程度あることが主な要因である。

Q KBCグループの1Q実績について確認したい。

A 金額的に大きな影響ではないもののスロースタートであり、計画達成に向けて取り組んでいく。

なお、FY18 予想については、5月時点と変更はない。受注は10%程度伸ばす計画だが、売上は受注残が減少していることもあり、横ばいの見通しである。営業利益は貸倒引当金等の特殊要因を除けば前年比で改善できる見込みである。

Q LNG 関連について伺いたい。

A ガス需要増に伴う CAPEX 投資の拡大に期待している。PJT 案件は複数あり、サプライチェーン全体でトップクラスのシェアを持つ当社にとって、北米・ロシアなどの地域を注目している。また、中国でも LNG 関連に期待はある。ただし、お客様の投資の意識決定から当社の受注・売上に至るまでには時間がかかることもご承知いただきたい。

Q 米中貿易摩擦の影響について確認したい。

A 現時点で具体的な金額算定は難しいが入札条件の変更などの顕著な変化も聞いていない。直接的な影響よりも、貿易摩擦が新興国、資源国など世界経済に与えるマイナスの影響を懸念している。

【中期経営計画 TF2020 関連】

Q OPEX ビジネスの状況について確認したい。

A 明確に OPEX の数字としてではないが、小口が若干増加している認識である。

OPEX の具体的な比率等については、現在、その定義を含め精査中であり、2Q 以降で説明していきたいと考えている。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正しています。